

自彊前進

題字 西村直子

NO. 43 令和6年1月29日(月)

新潟大学附属新潟中学校 学校だより

文責 教頭

※ 自彊前進…自ら努め励み、前に進むこと
(校歌3番の文言から)

『あすかた』行われる

1月26日(金)に参加を希望した57名の生徒と先生方とで、附中の明日を語る会(通称「あすかた」)が行われました。令和2年度末に実施されてから毎年行われており、今や附中の定番行事になっていますし、今後も継続していくでしょう。

この会のねらいは、今年度の学校生活を振り返り、生徒と教師と一緒に成果と課題を確認し合い、学校に関わる全ての人のwell-beingを求めて、共に次年度の教育活動について見通しをもつことができるようにすることです。

5~6人の生徒と教師1人でグループを構成し、全11グループでファシリテーション形式の話し合いを行いました。県内外や市内の先生方も参観し、興味深そうに話し合いの様子を見られていました。

話し合いにおいて、次のような対話がありました。

Aさん：(iPadの問題について) iPadを保管庫に入れるという方法があるけど。

先生：先生たちも悩むんだよね。保管庫にしまうという強制的なやり方で附中の自治って維持されるんだろうか？

全員：確かに。

Bさん：タイマーを用いて、鳴ったら片づけるという方法もある。でもそれも本当の自治なんだろうか？

Cさん：リーダーが呼び掛けたりして、生徒だけで解決できるようにすることが大切だと思う。

Dさん：みんながよりよい授業を創っていく集団の一人であるという意識が必要だよ。

今年度の教育活動も残すところ2ヶ月程度です。高く、遠くにジャンプするには十分な助走が必要です。残り少ない3学期を充実したものにし、更なる飛躍を期待したいものです。

